

青果物



熊本県 株式会社なかせ農園 『かんしょ(紅はるか)をアジアへ』

【主な品目】

かんしょ

【主な輸出先国・地域】

シンガポール、香港、台湾

【輸出取組の概要】

- ◆ 平成24年、JA熊本経済連を通じて、シンガポールへ輸出を開始。
- ◆ 平成26年、独自ルートで台湾へ輸出するが、検疫検査の壁が高く、2年で断念。
- ◆ 令和元年から、鹿児島のかんしょ生産・販売事業者を経由するルートにより、シンガポールへの輸出を拡大中(年間50トン以上)。

【輸出実績】(平成24年度から輸出開始)

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
平成30年度	220	8.7	10~2月
平成29年度	110	3	
平成28年度	110	4	

【効果があった取組】

熟成用保管倉庫に収容しきれない収穫直後のかんしょを未熟成、未選別のまま鹿児島の実業家に出荷し、同社倉庫にて熟成・選別した後、シンガポールに輸出。G-GAP取得。

【取り組む際に生じた課題】

- 1 台湾での検疫が不合格となり、廃棄が発生。(切断面から出る蜜を泥と判断)
- 2 船便での輸出の際、コンテナ内の温度上昇による結露のため、腐れが発生。
- 3 冷房コンテナの温度によるダメージ。(果物との混載便による低温障害リスク)

【生じた課題への対応】

- 1 検疫不合格となるリスクを回避するため、輸出先をシンガポールに特化。
- 2 熟成用保管倉庫に収容しきれないかんしょは、未熟成・未選別のまま、鹿児島の実業家に出荷し、同地で熟成後、シンガポールに焼き芋用として輸出。
- 3 品種により品痛みの程度差があるため、腐れにくい品種(紅はるか)に変更。

【対応の結果】

- 1 熟成用保管倉庫の収容力(140トン)を上回る収穫量を、鹿児島ルートにより輸出に回すことで、作付面積の拡大及び生産量の増大に取組みやすくなった。
- 2 紅はるかは、他の産地と比較して、ダメージが少なく歩留まりがよいと高評価。

【今後の課題・展望】

- 1 東南アジアでの焼き芋人気に乘じ、鹿児島ルートによるシンガポール向け輸出の増産と東南アジア諸国への進出。検疫障壁をクリアして、台湾向け輸出への再挑戦。
- 2 若手甘藷農家任意団体の法人化による輸出向けロットの確保及び有利販売。

【活用した支援・施策】 農林水産物・食品輸出プロジェクトの輸出診断を実施。

【ウェブサイト】 <https://www.nakase-nouen.com/>

【連絡先】 担当者名: 中瀬 靖幸、TEL: 096-221-7829



現地での商談会の様子



現地での販売状況